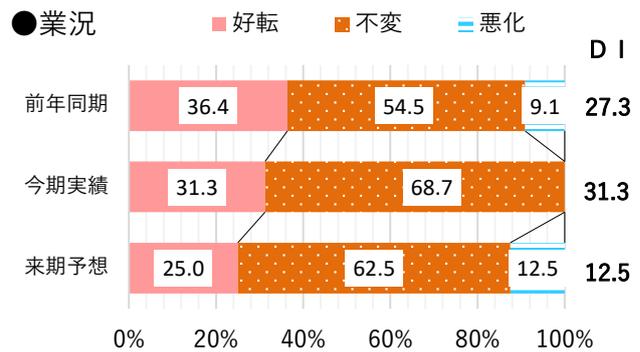


小 売 業

業況、売上、採算

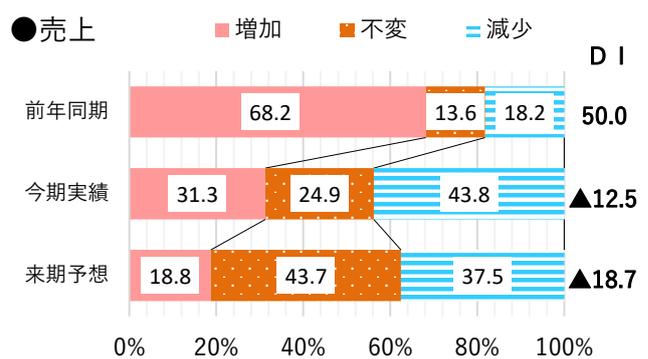
今期(2024.10~12)の業況判断DIは31.3で、前年同期(2023.10~12)と比べ4.0ポイント上昇しました。

来期(2025.1~3)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



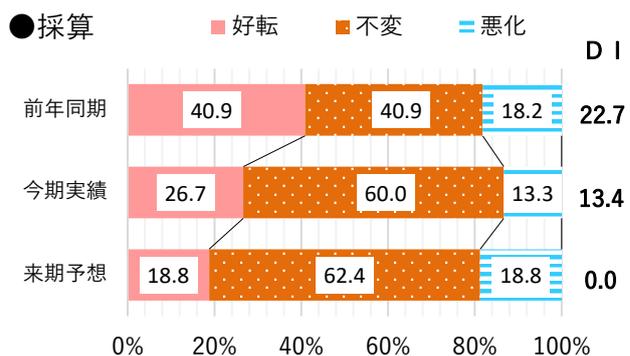
今期の売上高DIは▲12.5で、前年同期と比べ62.5ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上の減少傾向が続くと予想しています。

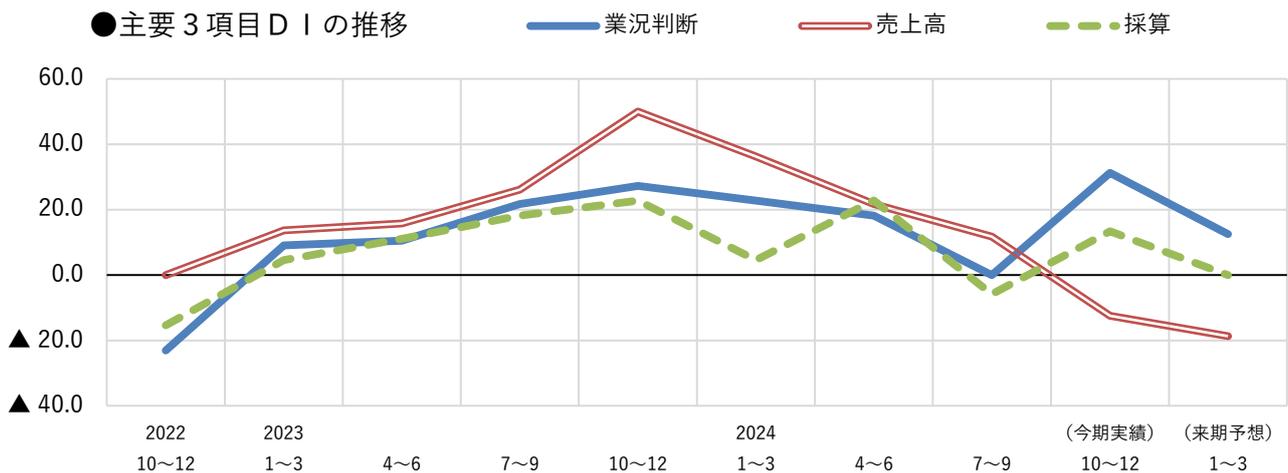


今期の採算DIは13.4で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



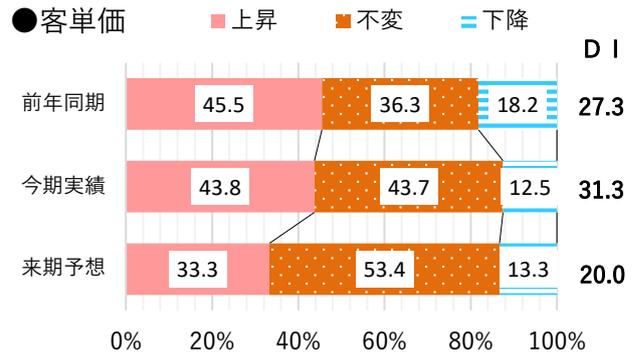
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

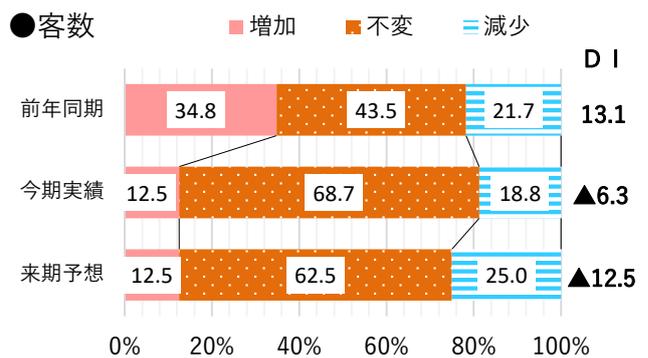
今期の客単価DIは31.3で、前年同期と比べ4.0ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲6.3で、前年同期と比べ19.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

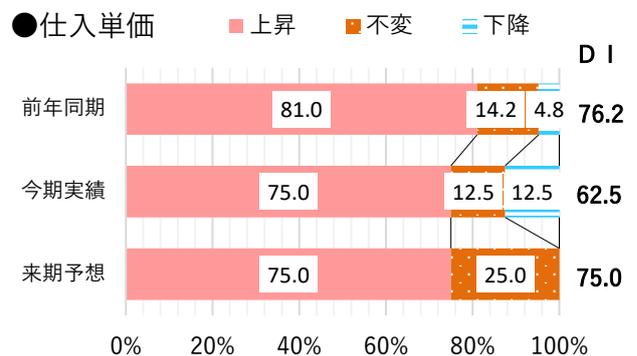
来期は、客数の減少傾向が強まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

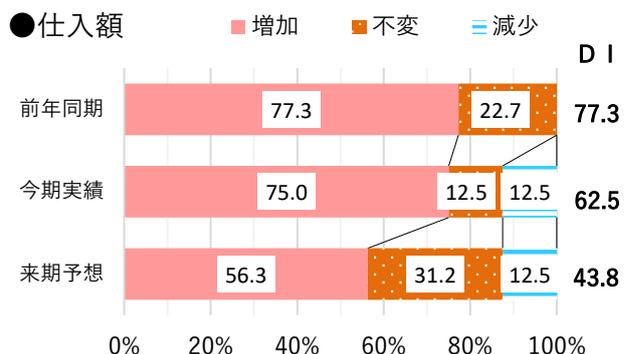
今期の仕入単価DIは62.5で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



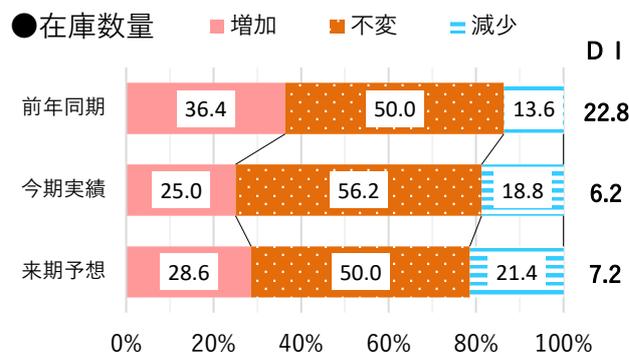
今期の仕入額DIは62.5で、前年同期と比べ14.8ポイント低下しました。

来期は、仕入額の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは6.2で、前年同期と比べ16.6ポイント低下しました。

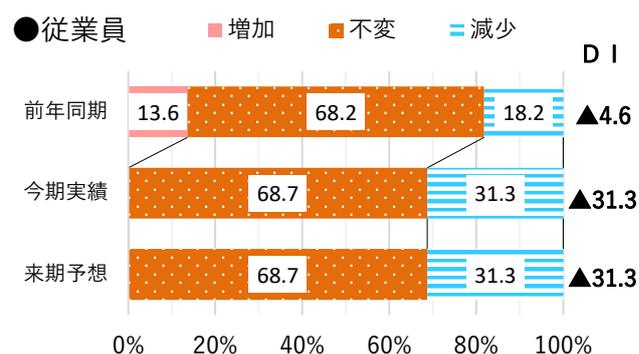
来期は、在庫数量に大きな変化はないと予想しています。



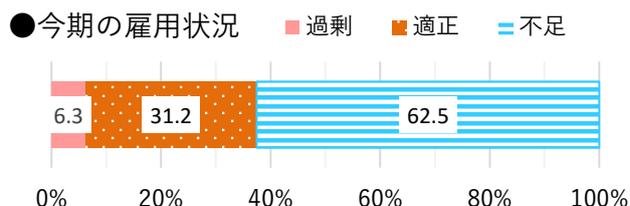
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲31.3で、前年同期と比べ26.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.3%、適正であると回答した企業の割合は31.2%、不足していると回答した企業の割合は62.5%でした。



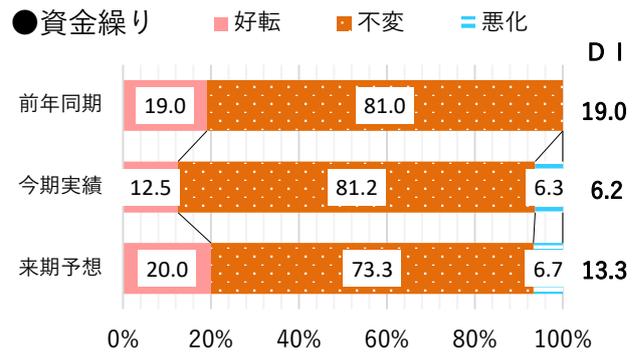
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答で、31.2%を占めており、62.5%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	5
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	5

資金繰り、設備投資

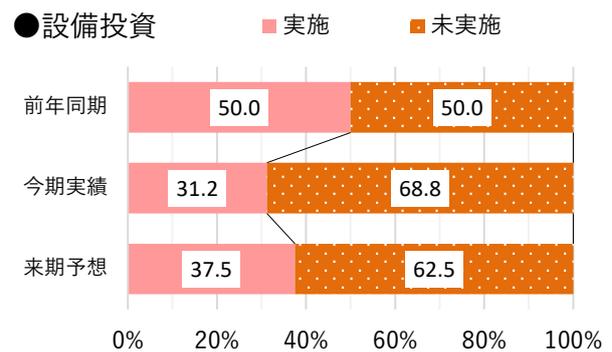
今期の資金繰りDIは6.2で、前年同期と比べ12.8ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が続くと予想しています。



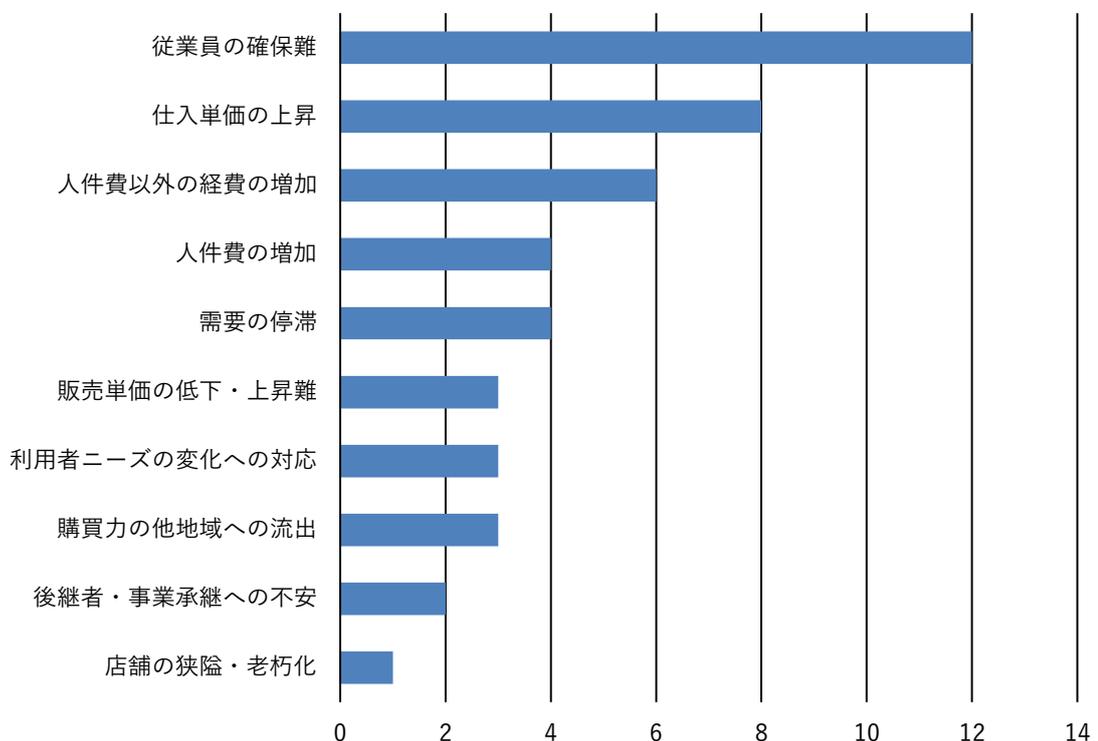
設備投資を実施した企業の割合は31.2%で、前年同期と比べ18.8%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は37.5%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンド向けの販売が好調なため、売上は増加しているが、人材が不足している。人件費や運賃、備品、販促費などの各種コストが増加しているため、経常利益の改善には至っていない。(大型店)
 - 原料の相場が高騰しているが、品薄感からなのか、高い消費意欲を感じる。また、市場価格が全体的に高騰したため価格競争が穏やかになったと感じる。(食料品)
 - 10月、11月はスポットで大きな受注が入り、売上は好調だった。原材料、包装資材の値上げが多数あり、利益は思ったほど上がっていない。(菓子製造小売)
 - 最低賃金の上昇により、収益が悪化した。(食肉)
 - 4月からの工場レバレート見直しの効果が出ている。サブスク利用者の比率上昇に伴い、粗利単価が上昇した。中古車の品薄により、オークション販売での粗利単価が上昇した。(自動車)
- ※レバレート：自動車整備士1人が作業した場合の1時間あたりの作業単価のこと
- 新型車投入により新車の売上、整備の売上が増加している。部品、用品等の値上げが続いている。若手営業社員の退職があった。(自動車)
 - 仕入価格が上昇した。(自動車)
 - 人手不足が続いている。(コンビニ)
 - 国内の消費者が高単価品志向と低単価品志向に二極化しているが、小樽は高単価品を買える層が少ない。中小零細、小規模事業者の大多数が廃業に向かっていると思う。(衣服・身の回り品小売)
 - 売上が減少し、資金繰りが悪化した。(衣服・身の回り品小売)
 - 年賀状印刷の売上が大幅に減った。(衣服・身の回り品)
 - 補助金の交付により、業況は不変だった。(石油)
 - 仕入価格と人件費が軒並み上昇し、利益を圧迫した。人材確保も難しい。(花・植木)
 - 物価高、顧客の減少が課題だ。(花・植木)

[来期の業況について]

- 人材確保は依然として厳しいと予測する。セルフレジの導入や機器の入れ替えで生産性を高めカバーしていく。冬の観光シーズンとなるため、観光客へのアプローチを強化していく。(大型店)
- 観光関連が活性化し、売上が増加すると思われる。(食料品)
- 毎年それほど大きい売上がない時期だが、原材料、包装資材の値上げ予定がある。(菓子製造小売)
- 最低賃金上昇の影響で、収益の悪化が続く。(食肉)
- 新車の生産状況により、3月まで売上減少が見込まれる。新車の受注状況は好調だ。(自動車)
- 最繁忙月の3月に向かうため、業績は好転する。人材確保が業績の鍵を握る。(自動車)
- 外注費が増加する。(自動車)
- 学生の卒業シーズンを迎えるため、アルバイトを中心に人手不足が深刻化する。(コンビニ)
- 消費者は生活必需品を優先し、似た商品ならより安い品を求める。冬期は暖房代が負担となり、購買意欲を減退させる。市民は生活に余裕がないと思われる。(衣服・身の回り品小売)
- インバウンド需要が増えてきているので、例年並みの売上は保てると考えている。(衣服・身の回り品)
- 業況を改善させたい。(衣服・身の回り品小売)
- 今期と同様の状況で推移すると思う。(花・植木)
- 物価高、顧客の減少が課題だ。(花・植木)